

令和6年3月8日

作成者：総務課行財政改革推進係

令和5年度 市川三郷町行財政改革推進計画策定に伴う住民説明会

－ 会議録 －

- 1 日 時 令和6年1月18日（木）午後7時00分から午後8時30分まで
- 2 場 所 市川三郷町歌舞伎文化公園ふるさと会館 ホール
- 3 出席者 【参加人数】72人
- 【町役場】町長 遠藤 浩
副町長 依田誠二
教育長 渡井 渡
- | | | | |
|------------|------|---------|------|
| 総務課長 | 一瀬 浩 | 政策推進課長 | 井上靖彦 |
| 防災課長 | 林 茂一 | 財政課長 | 森川規彦 |
| 町民課長 | 望月和仁 | 税務課長 | 芦沢 正 |
| いきいき健康課長代理 | 深澤克日 | 子育て支援課長 | 渡邊浩志 |
| 福祉課長 | 海沼良明 | 介護課長 | 櫻井 茂 |
| 農林課長 | 丸山章仁 | 商工観光課長 | 望月順二 |
| 生活環境課長 | 丹澤宏友 | 土木整備課長 | 立川 潔 |
| まちづくり推進課長 | 渡辺 潤 | 会計管理者 | 立川陽子 |
| 三珠支所長代理 | 丹沢真樹 | 六郷支所長 | 木村竹実 |
| 議会事務局 | 保坂秀樹 | 教育総務課長 | 相川由美 |
| 生涯学習課長 | 塩沢正也 | | |
- 【事務局】広聴広報係長 高柳咲子 総務人事係長 石原一彦
情報化推進係長 相川伸也 財政係長 深澤正弘
行財政改革推進係 伊藤昌也 外
- 4 会議内容 (1) 開会
(2) 町長あいさつ
(3) 計画概要説明
(4) 質疑
(5) 閉会

5 会議経過

(1) 開会 午後7時00分

(2) 町長あいさつ

町長のあいさつの内容は、次のとおり。

本日は市川三郷町行財政改革推進計画住民説明会を開催いたしましたところ大勢の皆さまにご参加いただき心より感謝申し上げます。

私が町長就任以来、行政改革、財政改革を強力に進めておりましたが、今年度に入り行財政改革推進のための部署を設置し更に強化し、その推進体制が整ったことから、9月19日に「財政非常事態宣言」を発出いたしました。財政状況の認識を共有し、ピンチをチャンスに変える反転攻勢の転換点としたものです。この宣言は私たちが想像していた以上に大きなインパクトがあり、10月の住民説明会では今まで政治への関心が高くないと思われた若い方の参加が多く見受けられ、積極的に未来へ繋がるような発言をしていました。

宣言発出以来、町内外の多くの皆さま方から応援の声をいただいております。具体的にはこれまでに、ふるさと納税へのアイデアや支援、企業版ふるさと納税でのご寄付、ネーミングライツ契約、地域活性化策へのアイデアや取り組みなど。また、現在、いくつかの個人、団体と地域活性化策について定期的な会議等進捗してございます。

この度、役場内行財政改革推進組織、外部有識者からなる推進委員会、住民の皆様から頂いたパブリックコメント、12月町議会での議論を踏まえて「行財政改革推進計画」を策定することができました。

この計画では、本町が取り組むべき行財政改革の方向性として4つの基本方針を掲げた上で、計画期間である令和7年度までに取り組む具体的な内容30項目をアクションプランとして示させていただきました。

全ての施策の総点検、適正化を図り、その結果生じた縮減経費をもとに将来への投資を積極的に展開することで、持続可能な市川三郷町を目指すものであり、現時点でみんなが決めた最高位の計画だと思っています。

これからが本番というべき行財政改革の推進には、町民の皆さまのご理解、ご協力が不可欠であります。

財政非常事態宣言以降申し上げているとおり、一刻も早い推進は明るい未来へ近づく第一歩となりますので、引き続き皆様のご協力を願いたします。

(3) 計画概要説明

資料に基づいて総務課長より説明。

(4) 質疑

参加者からの質疑は次のとおり。

－ 発言者 －	－ 発言内容等 －
参加者	<p>上野桃林橋の者です。遠藤町長に質問します。隣に副町長がいて誠に申し訳ございませんが、財政事情の関係でどうして副町長を今年度取り入れたか、それを理由として説明していただきたいと思います。それと、昨日六郷でもお話がありました、つむぎの湯休止とのお知らせがありましたけれども、それとまた市川大門駅の無人化、それらが山日新聞に出ておりました。臨時職員をつむぎの湯とか、市川大門駅に配置してますよね。私もですね、同じ会社に45年勤めてまいりました。それから10年に一度ぐらい、組織の見直しをしてきました。その結果、すごい効率が良くなりました。どうか、役場の職員には申し訳ないんですけども、役場も組織の見直しをして、つむぎの湯とか市川大門駅を存続させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。以上です。</p>
町長	<p>はい、ありがとうございます。一番最初の副町長選任の件でございますけれども、これは10月の説明会でもお話を申し上げました。私が町長選挙に立候補する決意を固めたのは、街宣車が毎日活動をしている町への愛着でございました。当時のことを思い出します。そして、前町長、また町議会議員を始めいろんな状況下の中で、刑事事件が発生をしたという状況でございます。普段の行政運営では到底、この難局を突破することはできない。そしてさらに、このような財政状況の中で運営をしていかなければならない状況でありましたので、私が知事をお願いをし、そして、優秀な副町長を市川三郷町に、お迎えをすることができたということでございます。そして今、改めてこういうふうな状況の中で皆様と共有をしております。この2年間で、これだけ町の中が変わってきました。今、この町の中でかつての事件のことを議論する人はほとんどいません。既にこの町は変わった。その変わった要因が、副町長に来ていただき、そして町の職員の勤務を見直し、事業を見直し、それを推進してきたから、今にきております。そしてさらにこれをスピードアップをして、そしてこの町を発展する方向へ進める。その動きが出てきている。今この町は変わろうとしています。既に変わっています。それを皆さんと一緒に、共有していくという宣言でございます。財政状況が厳しいから、だけではなくて、いろんな状況があって、人事をしっかりとマネジメントして、行政を進めていく。それが私の役割です。2つ目のつ</p>

むぎの湯の件でございますが、この推進計画の中身につきましては、また担当から説明を申し上げますけれども、来年1年間、財政健全化に向けた取り組みをして、それでも健全な方向が見出せないということであれば、今後検討していくというふうな中身であると示しております。また、市川大門駅の件ですが、これは、町の職員として、切符の販売だけをしているものでございます。もう既にJR東海が、財政上の問題で、これを撤退をしたということで、その時点で黒字化ができないという判断をしたわけです。これを当時は町が受け負うということで計画をしたわけでございますけれども、今回、非常に厳しい財政状況、そしてコロナ禍以降、甲西工業団地付近のですね、出張が、激減いたしました。また、JRの切符の販売形態も変わりました。近年、プリペイド形式の購入方法もできるようになるということでございます。この厳しい財政状況の中で、町の職員を配置するということを来年度以降、これは検討していかなければならないということで、議論を進めているところでございます。以上です。

参加者 町の活性化と言いましたけども、逆に縮小する事じゃないですか。その辺をどう考えているか、お願いします。

総務課長 縮小するばかりだということを言われましたが、まずは外部の推進委員さんたちともご協議させていただいた中で、有識者からもその優先順位が正しいだろうという判断をいただいております。まずは、これから皆様の生活を豊かにしていくためにも、98.1%という厳しい経常収支比率の中では、新しいことを進める、未来に向けての財源が見つからないので、今は無駄に使うことなく、そういう財源を見つけて、新たな将来に向けた取り組みに生かしていきたいということで、この計画を立てさせていただきました。

参加者 市川大門の者です。今回のアンケートにも回答いたしましたし、住民ワークショップにも参加させていただいております。2点ほど質問がございまして。計画を作成するにあたり、各課はどのような指示を受けたのか、何を、どの項目をどのくらい減らしてくれ、増やしてくれ、または何%にしてくれと指示があったのでしょうか。回答できる範囲で結構ですので、目の前の財政課長さんか総務課長さんにお答えいただきたいです。2点目です。先ほど町長からもご挨拶がありましたが、将来への投資について、具体的にどのようなことへ投資することをお考えなのかお

聞きいたします。以上です。

総務課長

ご質問ありがとうございます。各課への指示ということだと思えます。もし回答が間違っていたとしたら、ご指摘いただきたいと思えます。まずこの具体的な計画を立てるに当たりまして、庁舎内は、係長以下の一般職員も含めた検討部会というところで、実際に担当している方々が現状の問題を列記していただき、それについての検討を始めていただきました。そこで現場として何がいいのか、改善すべきか、その改善をしていくためにどうしたらいいのか、ということを検討していただきました。かなりの期間会議の回数を重ねて、検討していただいたもので、それらを我々管理職で構成します幹事会というところで、一緒にその中身の確認をしながら進めて参りました。ですから何をどういうふうにしてほしいというのは私達のトップから指示をするのではなく、現場で実際に仕事をしている、肌で感じている職員たちから上げていただいた取り組みの中身ということで、ご理解いただければと思えます。

政策推進課長

政策推進課長の井上靖彦と申します。将来の投資というご質問でございますけれども、中部横断道の六郷インターチェンジ周辺の企業誘致を行っております。開発業者が間に入りまして、製造業または物流業、または商業施設、その3点で開発業者の方で企業の選考もしてもらっている状況でございます。それが将来への投資というような点になると思えます。以上でございます。

参加者

私が一番危惧しているのは、住民の皆さんの町政への興味の薄さが問題なのではないかと思っております。これはYouTube等のSNSでも配信があるということをおっしゃられましたが、それ以外でも、そういったメディアを使わないで町政を知ることができるようなことを考えているようであれば何か教えていただきたいなと思えます。

総務課長

ありがとうございます。情報発信の仕方としましては、SNSを通じた発信の仕方が一番効果的だなというふうに現在思っておりますが、それだけで情報をとれる方ばかりではございませんので、きちんと広報紙を使った紙媒体での情報の共有ができるようにして参ります。それから直接皆様とのご意見を交わせるようなことも計画させていただいておりますので、必要とあれば今後も重ねていきたいと思えます。

参加者 上野の者です。今回の説明資料大変わかりやすいですね。1枚程度にまとめていただいて、ありがとうございます。私もさっきいただいて、わからないところがありまして、認識が足りないのでもっと聞きたいんですが、財政の運営というところで、シーリング 10%削減というふうに認識したんですけど、ただ単純に 10%といっても相当厳しいと思います。だから、絵に描いた餅になりそうですごく心配なんです。何が言いたいかって言うと、今回非常事態宣言をされたことが、市川三郷町というのが、全国的に悪い評判として広まった。私県外の方とお話をする機会がありまして、みんな大丈夫かと心配する声をお聞きするんです。それから私市川三郷町に住んでおりますので、今後の市川三郷町が非常に心配です。先ほど町長のお話の通り、反転の攻勢という形で、ちょうどいい機会だと思います。この機会を踏まえ、ぜひ今後アピールをして、市川三郷町が良いところだというようなことも皆さんで検討していただきたいと思うんです。要は資料も大切ですが、そういうところも念頭に置いて考えていただければと思うんですけど、その辺どうでしょうか。

財政課長 財政課長の森川規彦と申します。よろしくお願ひいたします。ご意見ありがとうございます。シーリングにつきましては、予算要求の段階でその上限を定めるものとなっております。また今年度の当初予算の段階から職員一丸となって取り組んでおりまして、対象となる経費につきましては、一般行政経費に係る一般財源につきまして、上限を 90%と設定しまして、結果として 10%の削減を目指すということになります。ただ確かに非常に厳しい内容で、検討が必要な過程がございました。また後半の部分です、今後の投資という部分なんですけれども、先ほど冒頭説明がありました通り、削減だけでは当然なくて、それにとどまらず削減経費をもとに将来への投資を積極的に展開することによりまして、町民の皆様とともに新たな時代に対応した持続可能な市川三郷町を目指すというものでございます。先ほどご意見いただきました通り、県外の方、全国の方にもご関心をいただいていることだと思いますので、その辺も含めまして市川三郷町をアピールしていきたいとも考えております。以上でございます。

参加者 ありがとうございます。本当今後ですね、山梨のリニアの開通等もあります。いろんなところでですね、やっぱり県それぞれの町でやっぱりいろんなことをやりたいというふうに考えて、そういうところでもやっ

ぱりこういう部分がしっかりしていないと市川三郷町の投資的な部分ということも、かなり厳しくなると思います。それも踏まえてですけれども、行政の今後の対策を検討していただければと思います。ありがとうございました。

参加者 上野地区の者です。10月の説明会のときにちょっと意見は言わせていただいたんですけども、やっぱり教育に関してすごくちゃんとしていただきたいっていうのがありまして、ここに図書館を2施設本館に統合すると書いてありまして、これは意見書の中に私も出させていただいたんですけども、今の六郷・三珠の図書館の利用はやっぱり子供が多いんですね。その子供たちが市川の本館の方まで歩いて、出かけていくかっていうと、それはなかなか大変なことだと思うんですよ。それを結局子供たちが放課後児童クラブで行ってるので、もし図書館として駄目っていうことでしたらせめて本を置いて、そこで本が読めるといった環境は考えられているんでしょうか。

生涯学習課長 はい、ありがとうございます。生涯学習課長の塩沢正也と申します。どうぞよろしく申し上げます。ただいまの図書館の質問ですが、説明にありました通り、本町には本館と分館がありまして、3施設を1施設にするという目標になっておりますが、大変ご心配されているお子さんとかですね、高齢者の方々が六郷地区・三珠地区でも本が借りられるようにですね、図書協議会でも検討させていただきながら、足の確保や児童館に置くこと等を検討してございます。

参加者 今のところはどうもありがとうございました。そこに置いていただけるとすごく助かるんです。あとちょっと気になったのが電子化によるホームページで情報を発信するということについて、市川三郷町は高齢者が多いですが、時代の流れもあるので、SNSとかに高齢者の方も触れることができるような、そういう対応っていうのも町で考えていただけるのかということと、いろんなところに高齢者の方が車の免許を返納してしまっ行って行くことができないってことに対して交通網っていうのをどういうふうに考えてらっしゃるのかをお願いします。

政策推進課長 交通網ですけれども、現在皆様ご存知の通り、コミュニティバスが4路線通っております。三珠線、山保線、六郷線、六郷循環線の4つでございますけれども、この運行形態が合併前後の19年前とほとんど変わ

っていない状況になっております。そして、利用されてるお客さんの数も大変少ない状況でありまして、この交通形態を抜本的に来年、再来年にかけて地域公共交通計画というものの作成を考えております。それでいろいろな場所がございまして、山間地もありますし、平地もありますし、また図書館等の統廃合がございまして、そういった部分の足の確保ということで、専門的な分野になるかと思っておりますので、しっかりと計画を作成をして、そして実行できるように、来年再来年にかけてやっていきたいと考えております。以上でございます。

総務課長 高齢者に対する SNS 等の支援ということだと思います。これまでも教育委員会を通じながら、講座を開いたり支援しておりますので、これからはそれぞれ業者さんと協議をする中で大勢の皆様に使方を教える場が設定できるものと考えております。ですので、継続してやっていきたいと思っております。

参加者 ありがとうございます。今までのそうした SNS の普及活動をされているというお話でしたけど、8月に町の全体計画のアンケートに答えて、ワークショップにも参加しているんですけども、そこでちょっと出た話なんですけれど、せっかく青洲高校っていう高校がありますよね。そこにいろんなところから来てる生徒たちがいて、そういう生徒たちとこの町の高齢者が接触して、いずれそこで大々的ではないけれども、教え合うようなこともあったらいいんじゃないかっていうふうな提案なんかも出ております。とにかく町がうえからやるだけではなく、そういう何かいろんな方が参加できるようなちょっとした活動かもしれないんですけども、そうやって住民の方とか外部からくる方々が接触して、いろんなことをやっていくということも必要じゃないかと思っています。これは私の意見なんで、質問するわけじゃないんですけど、そういうふうなことも考えていただければと思います。すみません、ありがとうございました。

総務課長 ご意見いただいて、ありがとうございます。我々としましても、いろんな立場で子供からお年寄りまで様々な経験を持っている皆様と一緒に町のことを考えていきたいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願ひします。

参加者 私は山保の帯那の者です。よろしくお願ひします。昨年の12月に回覧

板が回ってきまして、その中に、衛星携帯電話を廃止するということが載っておりました。場所が場所ですのでだいぶ気になってはいるところですので、このことについて質問させていただきます。昨年の中での現在の通信業者においても、災害対応が十分できる体制であるということで、衛星携帯を廃止するというようなことになっております。当然お金もかかりますから、そういうことだと思います。しかし、今年になって、皆様ご存知のように、北陸で大変な地震が発生しました。いまだかつて、全容把握、それが全くできない状態というところもあるので、そういうことを考えますと、携帯が通じないのではと思います。文章には携帯があつたら十分じゃないかというように載ってますけれども、携帯は通じないんですよ、現状は。その中で、市川三郷町の山間地に住んでる者としては、この衛星携帯をなくすということを非常に危惧しております。この衛星携帯をなくすことによって何か特別なものとか違う方法とか、何かあるんでしょうか。あつたらお聞かせ願いたいと思います。ただ、通信拠点が倒壊しても、別ルートで通信可能と載ってますけれども、本当にこれ可能なんでしょうか。本当にその辺が心配なんです。どうでしょうか。

防災課長

ご質問ありがとうございます。防災課長を務めさせていただいております林茂一と申します。今回、衛星携帯電話を廃止ということでご連絡を差し上げて、現在回収を行っているところです。この衛星携帯ですが、導入をいたしまして、年数も経っている中で、現在使っている衛星からまた別の衛星を打ち上げて変更するというような状況です。今回おっしゃられたように能登半島で地震が起き、孤立して連絡が取れないというところが、出ておりますので、心配ではありますが、衛星携帯を切り替えるということで、回収の通知を出させていただきました。今後とも、これは検討課題だと思いますので、検討する中で、連絡が取れない、そういう状況が起きないような形を考えていきたいと思います。また皆様と一緒に、私どもも研究いたしまして、対応していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

参加者

どうもありがとうございます。しかし、もっと前から東海地震がいつ来てもおかしくないということが言われております。最近では、さらに南海地震が30年以内ですか。70%以上の起きる可能性がどんどん高くなっている状況です。そうなると、やはり揺れるのは市川三郷町だけじゃないんです。全部に言えるんです。結局はそういうときに、アンテナで

すね。携帯電話はアンテナがだめになります。また、大勢の方が安否確認するというので、発信が集中すると思います。多分携帯が通じなくなるんじゃないかなと思うんです。しかしそういうときに、衛星携帯があれば、別ルートですから、状況が把握できるんじゃないでしょうか。どうなんでしょうか。できればですね、令和5年度に廃止するという事なんですが、それはある程度の別なルートを確立ができるようなときまでは、今の衛星携帯電話を使えるようにできないでしょうか。どうですか。

防災課長 ありがとうございます。先ほど申し上げたような形で回収ということをしておりますが、今そういうご意見をいただいたので、早い段階でその判断を検討しまして、その衛星携帯が残せるかどうかの検討をして、対応できるようにしたいと思います。

参加者 ありがとうございます。山保だけではなく、六郷や三珠にもそういう山間地があると思うんです。非常事態の際は何らかの形で発信が出来るようにしていただきたいです。

防災課長 ありがとうございます。私どもも、もう少し細かく伝えて、現在配置している皆様にご意見をいただければよかったと思うのですが、この何年間か使ってくる中で、年に何回かテストしてもらっております。その中でしっかりと連絡をいただけて、確認して大丈夫ですね、ということをしてしておりますが、全然連絡をしていただけないところもあったり、いらないところもあって、このような形となりました。しかし、今回そういう意見もいただきましたので、この意見も大事にしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

参加者 町屋の者です。2、3気になったことがあったんで、質問させていただきます。パブリックコメントも一応全部見させていただき、かなりの一般論の意見として施設が多い、役場の職員が多いという意見がありました。ただやっぱり役場の職員が多いからって簡単にクビにするなんてことはできないと思うんです。この計画の中にも入ってますけど、早期退職制度っていうのを今までやってこなかった。これからやるってことは書いてありますけれども、これについては、本気度を持ってですね、町長のおっしゃるように聖域なく全てのところを踏み込んで見直すと。早期退職制度を活用して、さっきの話の中でも、3年間で24人とかそんな

もんじゃなくて、もっと減らすことができればと思います。もっと本気度が出れば、もうちょっとその早期退職制度を使えば、減るんじゃないか、それが1点目です。それからですね、行財政改革の資料の中の13ページ、「業務量の正確な把握が難しく、業務量に応じた人員配置も困難になっている。類似団体と比較すると職員が20人ほど多くなっている」こう書いてあるんですよ。ちょっと考えると、役場の仕事の業務量の把握が難しい、そんな仕事なんじゃないかね。この表現がすごく引っかかりましてですね、どうしてなのか。もう1つ、会計年度任用職員が各課ごとの採用とかってどっかにも書いてありました。これは、他の課には異動できないっていう、そういう職員なのではないですか。それはどう考えても効率が悪い。少なくとも、全部の課でなくとも、2つか3つの課で、共同で採用して、その課の間でですね、職員の多いところ少ないところを公平にすると。少なくともそういうことが必要じゃないかと思います。それからもう1点、みたまの湯について、一般財源負担が3ヶ年の平均で、1ヶ年あたり4,600万円の負担をしてるんです。そんな数字を見たことがなかったので、みたまの湯はかなり人が来てて、内容も良くて、収入があるから、町も相当財政的に潤っていると思っていました。しかし、よく考えるととんでもないんですよ。これから20年経つといろいろな改修があるんです。すると、また何億何十億っていう改修費をこれ町の施設なので町が負担しなくちゃいけない。今までのかかなりの利益が残っていたのか。確かに入湯税は毎年、かなりの金額が入ってます。3,000万円ぐらいですかね、それぐらい入ってます。多分それ以外にもかなりの利益が出てと思う。その辺の契約の見直しは令和6年度にあるって書いてあります。最初から契約の見直しが1回もないということですから、旧三珠町時代に契約したその内容でやってると思うんです。ちょっと私もはっきりわからないんですけども、利益の配分、利益が出た場合は当然、町へ還元ということでやってると思います。その辺の計画内容が、はっきりしない。決算が一般会計、特別会計になると、ちょっと素人には、はっきりどっちがどうなのかわからないんですよ。その辺の説明をちょっとお願いできればと思います。よろしくお願ひします。

総務課長

ご質問ありがとうございます。私の方で最初の方の質問の答えをさせていただきます。まず業務量の正確な把握が難しいという表現が、非常に難解だという件につきまして、我々としましてここへ来てですね、時代の流れが激しくなっております。DXの推進やあらゆる業務が今

後デジタル化をしてきたり、そういうことが日々新しいものになっているということで、1年前のものが使えるかという、なかなかそういう状況ではありません。そういうことを協議しているということをご理解いただけたらと思います。それから会計年度さんが他の課の仕事を手伝えないのは問題なんじゃないかという話ですが、そもそも会計年度任用職員の運用方法として、突発的な仕事や専門的な仕事が発生したときにそれに対応するための専門の人として任用させていただいております。ですから、元々の会計年度任用職員さんは業務ありきで、その業務に対して入っているものですから、そういう体制になっております。今回はそういうところも先ほどお話ししましたが、DXやデジタル技術を使って職員がもっと自分たちができる仕事の量を増やして、その分までカバーして職員が頑張りましょうということを考えております。ですので、そもそものスタートの考え方がちょっと違います。ただ、今言われたようにいくつかの課の仕事において、繁忙期と閑散期、それはもちろんありますので、そういうところをうまく使えるのかどうかを勉強しながら考えていきたいと思っております。

商工観光課長

商工観光課長の望月順二と申します。よろしくお願ひいたします。みたまの湯の経営というご質問でありますけれども、みたまの湯につきましては、皆さんもご存知の通り町内外、県内外から大変好評でありまして、多くのお客様に来場していただいております。ただご指摘いただきました通り、施設ですから、建設にかかる費用もかかっておりますし、その後、今年で20年ぐらいになりますので、10年ぐらい経ったときに、大規模な改修をいたしましたし、ときにはその年において大きな修繕をしなければならないこともありますので、そういうことを考えますと、町からの負担も大きいものがあります。お金の出入りだけを考えると確かに町の負担も相当な金額があるんですが、それでもお金をかけた分は、しっかり施設として、資産として残っておりますのでトータルで考えたときには、健全な運営になるというふうに考えております。それと参考までですけれども令和5年度の決算で考えた場合には、今年はコロナ禍が明けたということもあり、相当多くのお客さんに来ていただいておりますので、町の方の会計で考えたときも、最終的には黒字になるだろうというふうに見込みをしております。そして今後、みたまの湯については、町の核、峡南地域でも核になるような施設でありますし、これからはそんなふうな運営をしていきたいというふうに考えております。したがって、先ほどご指摘いただいたような指定管理者さんとの契約に

ついて、令和6年度中に新たに契約を更新していくという時期になりますので、そのときにはまたみたまの湯であげられた利益がもっと町に入るようにしたいと思います。また、開館をして20年となりますけれども、それから入浴料などの見直しを行ってきておりませんので、そういうところの見直しを行いながら、もっと収入が増えるような取り組みを考えていきたいと思っています。

参加者 上野地区の者です。今日は丁寧な説明をありがとうございました。僕の方からいくつか質問というかご意見をさせていただければなと思います。最初の意見なんですが、感情論じゃなくて数字で見ていく方が好きな人間なので、今後、誰々が苦勞するだとか、困るだとかそういう話ではなくて、各項目について、数値で表していただきたいです。財政非常事態宣言も発出したわけですが、実際、あと何年間でどういった額の赤字額が出て、財政が破綻するのかっていう目論見の基、これを出したのか、ちょっと不透明なので、資料にそこを追加していただきたいというか、追加の説明をしていただきたいです。施設を統合するっていう話があったと思うんですけども、給食センターを3施設を1施設へ統合するということがまずあるんですけども、給食センターを例えば統合したときに、一つの場所に統合したとしたら、他の場所に給食を運ぶにあたってかかる費用と、1施設で運営していく費用っていうものが、実際にいくらでどれだけの利益か換算されて、今使っている施設を処分するのにかかる費用と比べたときに、実際に何年間で利益が計上できるのかっていう数字を出していただきたいです。それと庁舎についてなんですが、先ほどの方の質問ともちょっと被ってしまうところで、4施設を段階的に本庁舎へ統合して、職員を少し削減するっていう話を伺ったのですが、この施設を1つの施設に統合したとしたら、もちろん4分の1とまでとはいかないにせよ職員の数が大幅に削減できると思うんですね。もちろん仕事量が減るわけではないので、職員を単純に4分の1に減らせるわけではないと思うんですが。4庁舎に派遣しているから、その人数が必要なのであって、1つの場所に集約するなら、管理職を含めてもっと簡単な組織化ができるのであれば、人数をどの程度の割合で減らせるのか、それを総務課長さんにお伺いしたいです。実際将来的な問題で何割ぐらいの人数を減らして、そこからいくらのお金が作れるのかっていうのが、町のこれからの町政において、大きなお金をそこで出していけると思います。そこで、あとどのぐらいの人数の削減を考えてますという話もしていただけると幸いです、よろしくお願ひします。

財政課長

財政課長の森川です、よろしくお願いいいたします。まず財政の状況、危機感を数値でという話でございますが、財政非常事態宣言の際に、財政状況について説明をしております、そのときの説明をさせていただきます。まず財政の危機的な状況といたしましては、象徴として2つ挙げさせていただきます。1点目といたしましては、恒常的な赤字体質の顕在化といたしまして、実質的な収支で5年連続の赤字決算。平成29年度から令和3年度につきまして5年連続の赤字決算という状況でございます。また2点目といたしましては、硬直化した財政構造という説明をしております。令和3年度の決算におきます経常収支比率が98.1%ということでございます。経常収支比率といいますのは、財政の硬直化を示すものでありまして、その比率が県内でワースト1位、全国でワースト11位という状況でした。そういった財政状況を招いた原因でございますが、一言で申し上げますと、構造的な問題であったと考えております。長期的に言いますと、歳入が減少する一方、歳出の削減が進まなかったという構造上の問題がございます。その構造上の内容でございますが、歳入につきましては、人口減、少子高齢化などによりまして、地方税・町税収入が減少してきております。また、歳入の面で地方交付税につきまして、合併算定替えというものがございまして、合併後10年間は優遇措置があるんですけども、その後5年間で縮減されるということで、既にその縮減がされているという状況でございます。それから歳出の面の構造的な問題でございますが、事務事業の見直しが図られず、また施設のあり方の検討が進められず、経費の削減が進められなかったということがあったと考えております。これらのことから、長期的に見て厳しい状況になってきた、数値的に厳しい状況になってきたというふうに分析をしております。またその際に、財政破綻という話が先ほど出ましたけども、今現在財政破綻したということではございませんが、このまま先ほど申し上げました構造的な問題を抱えたまま、改革を行わず推移した場合には、7年後には破綻するような事態になりかねないというふうな推計を昨年していると説明をさせていただきます。財政につきましては以上とさせていただきます。

教育総務課長

ご質問ありがとうございました。教育総務課長の相川由美と申します。よろしくお願いいいたします。先ほどの質問なんですけれども、行財政改革推進計画はホームページ等でも示されていると思いますけれども、そちらの29ページになります。今、もしお持ちでなければまた後で

ご覧いただければと思います。給食センターにつきましては、すぐに統廃合するというものではありません。3 つ施設があるんですけども、実は3 施設とも老朽化が激しくなっておりまして、修繕にも費用がかかっております。長期的に考えて将来的に統合をしていきたいという考えになります。計画にもありますように、現状維持、統合に向けてこれから検討していくということになります。金額的なものは、三珠学校給食センターで約 2,000 万円、市川大門学校給食センターで約 5,000 万円、六郷学校給食センターで約 1,500 万円の削減というふうになるかと思うんですが、もちろん新しい施設を建てるとなると、それもまたお金がかかってきます。そこも検討していきたいということでございます。

総務課長

最後の質問の職員数のことについて回答させていただきます。現在三珠庁舎、市川大門庁舎、六郷庁舎ということで、大きな所3 つの庁舎がございます。三珠庁舎には三珠支所と商工観光課、農林課が入っております。商工観光課というのは三珠庁舎にしかございませんので、市川大門にも六郷にもございません。それぞれの課は支所を除けば独立した課というふうにご理解いただきたいと思いますので、例えば商工観光課の仕事を三珠でなくて六郷や市川大門でもやっているとすれば統合すると、それは減ると思います。しかしながら、基本的には業務が変わらない限り独立した課の人数は変わらないという認識でおります。とはいえ、近隣の町と本町では、20 人近く多いという現実も理解しておりますので、業務の見直しを行う中で課の統廃合も今現在検討しておりますので、2 年後までには4 つの課が減らせるのではと検討しております。

参加者

統合するとやっぱ施設が減るじゃないですか。もし、この計画で黒字になった場合は、今後施設を増やしたりはする予定なのでしょうか。

総務課長

ありがとうございます。まず今は厳しい状況なので、止血をしましょうということがこの改革の一丁目一番地と考えております。先ほどからお話させていただいておりますが、将来的な取り組みができて、例えば人口が増えたりそういうことがあれば、その状況に応じた対応をしたいと考えております。

参加者

意見いいですか。さっき悪いイメージで有名になったっていう話があったんですけど、僕は前向きに捉えて、もう全国的に有名になったんだから、苦しいですみたいなのを前面に出していけば、全国の人たちも、聞

いてくれるんじゃないかなと。あまり恰好つけるよりも、本当に苦しいです、助けてくださいと言った方が、いいんじゃないかっていうのは個人的には思っています。

参加者 今日丁寧な説明をありがとうございます。この間のパブリックコメントも出させていただいて、今日の資料もそうなんですけど、ちょっと私の方で、これが無いなと思ったのは、公共事業についてです。よく財政再建のそういう話になりますと、公共事業という話がよく出てくるのかなというふうに思うんですが、片や公共事業を担う工事業業者というのは地域の活力であり、今回の地震でも大活躍というところで、適正な量の公共事業を行うことは必要であると考えております。その中で、財政危機という状況で、何かをしなければならぬといったときに、今後市川三郷町の公共事業はこういうふうな方向性で行いますよ、みたいな方向性が必要ではないかというふうに考えております。もしその辺で何かしらをお考えないし、ご意見があったら伺いたいというふうに思っております。

総務課長 ご質問ありがとうございます。公共事業についての考え方という質問であると理解しておりますが、皆様の必要な公共事業については行っていかなければいけない部分と思っております。ですので、先ほどシーリングの話もありましたが、一般行政経費の財源の部分についてはシーリングをかけて縮減しようという話ですが、公共事業については、それとは別個の話になりますので必要な公共事業については、計画とは別に行って参ります。

参加者 はい、それでちょっと私の意見を1つ言わせてください。私は今後の公共事業はストックマネジメントを行うべきと思っております。新しく道路を走らせるであつたりとかではなくて、既存施設を大事に大事に使っていく、そういう公共事業を展開していくのがよろしいかと思っております。参考にしていただけたらありがたいです。ありがとうございました。

参加者 先ほどからっていうか、とにかく職員の数を減らしようっていうお話がすごく出ますけれども、職員の数を減らしても非正規を増やしてしまったら困ると思うんですね。やっぱり役場の職員の方たちも働いた分、税金を納めてらっしゃいます。それが非正規になった場合、税金を納める額がガクンと下がりますよね。だから、職員を減らすだけでい

いのかっていうところをちょっと思うんですよ。だから職員の数は減らしました、でも結局仕事が大変で、非正規の方を増やしましたっていう、そういうふうな解決方法はとってほしくないなと思うんです。住民もちゃんとしっかり見ていかなきゃいけないのかなっていうのはすごく思っています。何かちょっと質問というより意見になってしまいましたけど、例えば、私もあまり詳しくはないんですけど、図書館の専門職員とかが確か 70%専門ではない人が図書館に入って、そういうふうにとんどん専門職っていうのを非正規とかにしていって、ちゃんと入るお金を少なくしていくっていうことはよくないと思う。だから、ただ単に人数を減らす職員の人数を減らすっていうだけを考えるのではなく、そういう非正規を増やさないっていうこともすごく大事じゃないかなと思うんでちょっと一言言わせてもらいました。

総務課長

ありがとうございます。まさに私どもも同じ考えでございまして、その考え方を変えていかないと、今までのままでするので事務事業の見直しを行うということを明記させております。業務のスクラップアンドビルドをしっかりとやりながら、職員も自らのスキルアップを図って能力を上げて、事務処理能力をアップしていくということも必要ですし、様々な展開を職員としては考えております。ただ今までと同じような感覚で、できないことを誰かにやってもらうということは無くしたいと思えます。そういうことがないために、職員のスキルアップもしますし、そういう業務についても DX を使ってですね、実際のモデルを使った中で、業務を我々職員でなくても、機械ができるような仕事はそちらに。きちっとした役割分担をしながら皆様の住民サービスが低下しないようにしたいと思えます。それだけはお伝えできますのでよろしくお願ひします。

参加者

今回の緊急事態宣言で、相当町の外に悪いイメージが出たんですが、今後はそういう影響を、段階的にこれを改善してこういう結果が出たとか、そういうことをどんどん YouTube 等で発信をした方がいいと思えます。

総務課長

ご意見ありがとうございます。おっしゃる通りだと思っておりますので、我々も誠心誠意取り組んで参ります。

参加者

三珠の者です。今福祉センターを大変ありがたく使わせていただいて

る者なんですけど、ちょっと耳にしたので、心配して、こちらに来させていただきました。三珠のYLOがどういう計画になっているのか、よろしく願いいたします。

総務課長

ありがとうございます。ご心配されている件ですが、それぞれ全ての施設をフラットに見直しましょうということで今回取り組みをさせていただきました。皆様にご迷惑をかける部分が出ることは承知の上でございますけれども、先ほどからお話をさせていただいている通り、同じような施設がありますので、そういうところの見直しをしていく中で、この施設は休止をしましょう、この施設は残しましょうということが、今の段階で出てきております。今後施設をご利用されてる皆さまと、またお話をさせていただくことになろうと思っておりますので、その中で具体的に説明をさせていただければと思います。先ほど若い方もおっしゃっていただきましたが、今は休止するかもしれませんし、もしかしたらそこでまた財政状況が改善された際には、どうしても必要ということが分かれば改めて再開する可能性もゼロではございませんので、その辺も含めてご理解いただければと思います。今後は具体的な個別の内容につきましては担当と利用団体の皆さんと話をさせていただくことになると思いますが、その際はよろしく願いしたいと思います。

参加者

はい、お願いしておきたいです。私達今使わせていただいているんですけど、予約が重なっていることもあって、いつも利用者が多いんだと思います。ぜひ三珠にそのまま置いていただきたいとお願いします。

(5) 閉会 午後8時30分